

設問	設問	選択肢	正解	正解と解説等
1	スターリングの仮説に 関係ないもの はどれか。 ①～④の中から1つ選びなさい。	1 毛細血管内静水圧		関係あり
		2 リンパ管の太さ	✓	【正解】関係なし
		3 間質液膠質浸透圧		関係あり
		4 血管壁透過性		関係あり
2	リンパ節の役割に関して 関係ないもの はどれか。 ①～④の中から1つ選びなさい。	1 リンパ管の蠕動運動の亢進	✓	【正解】関係なし
		2 リンパの濾過		関係あり
		3 リンパの濃縮		関係あり
		4 免疫応答		関係あり
3	浮腫の原因と 関係のないもの はどれか。 ①～④の中から1つ選びなさい。	1 心不全		関係あり
		2 低アルブミン血症		関係あり
		3 腎不全		関係あり
		4 糖尿病	✓	【正解】関係なし
4	次の文章で正しいものはどれか。 ①～④の中から1つ選びなさい。	1 リンパ浮腫は組織間隙に水分が停滞した状態である。		誤り。高蛋白性の体液。
		2 浮腫は組織間隙に水分と脂肪が停滞した状態である。		誤り。水分
		3 ISL病期分類Stage II期晩期では圧痕テストが陰性となる。	✓	【正解】正しい。
		4 ISL病期分類Stage II期では拳上によって浮腫が解消する。		誤り。拳上によって解消するのはStage I
5	リンパ浮腫に対する複合的治療について正しいものはどれか。 ①～④の中から1つ選びなさい。	1 弾性着衣の着圧程度はClassで表記され、国際的に共通である。		誤り。国やメーカーによって異なる。
		2 圧勾配は中枢側から末梢側に向かって10:7:4である。		誤り。圧勾配は末梢側から中枢側に向かって10:7:4
		3 用手的リンパドレナージはどの病期に対しても必須である。		誤り。治療の基本は圧迫である。
		4 下肢リンパ浮腫の治療にはストッキングタイプを選択する。	✓	【正解】正しい。
6	リンパ浮腫の予防について誤った文はどれか ①～④の中から1つ選びなさい。	1 リンパ浮腫指導管理は入院中と退院後の二回算定できる。		正しい
		2 蜂窩織炎を予防することは、リンパ浮腫予防にはとくに重要である。		正しい
		3 センチネルリンパ節生検のみを受けた乳癌症例には指導は不要である。	✓	【正解】センチネルリンパ節生検だけでもリンパ浮腫が発症しうる。
		4 理想的なBody Mass Index (BMI)は22である。		正しい
7	浮腫の原因として誤りはどれか。 ①～⑤の中から1つ選びなさい。	1 毛細血管内圧上昇		正しい
		2 血漿膠質浸透圧低下		正しい
		3 血管透過性低下	✓	【正解】誤っている。
		4 組織膠質浸透圧上昇		正しい
		5 リンパ管機能低下		正しい
8	リンパ浮腫は、重症度で分類される。術後リンパ浮腫の治療で、複合的理学療法を積極的に行えるのはStageのどの段階からか。	1 ステージ0		【3の「ステージII」が正解】 複合的理学療法は患肢腫脹が明らかな段階では有効であるが、まだ浮腫が顕著でない時期にはあまり積極的に治療を行うと患者の負担となることが多い。 特に0期(まだ浮腫はない)は日常生活上の注意が主体となる。
		2 ステージI		I期でも、弾性包帯はもとより、弾性スリーブ・ストッキングや用手的リンパドレナージは状態に合わせて患者に無理のかからない方法を考慮する。
		3 ステージII	✓	なお、リンパ浮腫の重症度は0～III期に分けるので、IV期はない。
		4 ステージIII		
		5 ステージIV		
		1 患肢の拳上	✓	

9	リンパ浮腫の複合的理学療法として誤まりはどれか。 ①～⑤の中から1つ選びなさい。	3 弾性着衣による圧迫療法		【1の「患肢の掌上」が正解】 解説:患肢(患部)掌上は治療の基本であるが、複合的理学療法の4つには含まれていない。
		4 圧迫下の運動療法		
		5 スキンケア		
10	浮腫に関する記述で正しいものはどれか。 ①～⑤の中から1つ選びなさい。	1 緩和ケアでは一次性リンパ浮腫が多くみられる。		誤り
		2 低蛋白性浮腫の浮腫液濃度は一般的にリンパ浮腫より薄い。	✓	【正解】正しい。
		3 心臓疾患では心拍出量低下による浮腫が主体となる。		誤り。心臓病では、主に静脈圧の上昇に由来する浮腫が生じる。
		4 蜂窩織炎ではヒスタミン遊離抑制により血管透過性が亢進する。		誤り
		5 タキソテール(一般名ドセタキセル)はADH分泌が増強される。		誤り
11	リンパ浮腫の診断について正しいものはどれか。 ①～④の中から1つ選びなさい。	1 原発性リンパ浮腫は続発性リンパ浮腫より早期診断が容易である		誤り。原発性リンパ浮腫の診断は非常に難しい
		2 pitting edemaの所見が得られれば、リンパ浮腫として診断してよい		誤り。全身疾患に伴う浮腫でも見られる
		3 リンパシンチグラフィはリンパ機能を評価するのに有用な検査方法である	✓	【正解】正しい。
		4 静脈造影検査がリンパ浮腫の確定診断となる		誤り。同検査ではリンパ管は描出されない
12	リンパ浮腫に関する検査方法のうち正しいものはどれか。 ①～④の中から1つ選びなさい。	1 患肢周径の左右差が5ミリ以上あれば、リンパ浮腫である		誤り。1cm以内の左右差は健常でもあり得る
		2 ICG蛍光リンパ管造影法では体表に近いリンパ管の走行が確認できる	✓	【正解】正しい。
		3 MR lymphography は侵襲のない検査方法である		誤り、造影剤を使用するので侵襲はある
		4 超音波検査で数石状サインを認めた症例は、リンパ浮腫である		誤り、数石状サインは水分貯留を示す所見である
13	次の文章で誤っているものはどれか。 ①～④の中から1つ選びなさい。	1 リンパ浮腫に対する治療方法は限られているので、検査を行う必要は無い	✓	【正解】誤っている
		2 複合的理学療法の効果の評価するために、超音波検査は有用である		治療によって排液された様子が描出される
		3 リンパ管静脈吻合術の効果はICG蛍光リンパ管造影法で確認できることがある		術後検査で部位により吻合部が描出される
		4 治療による患肢の硬さの変化を評価する検査方法は、現在はない		保存治療・外科治療ともに奏功すると患肢は柔らかくなるが、有用な検査方法がない
14	リンパ浮腫指導管理料が算定できる状況について正しいものはどれか。 ①～④の中から1つ選びなさい。	1 該当するがんの手術前にリンパ浮腫について説明したが、予定されていた手術が行えなかった。		誤り。術前に説明しても、予定された該当手術が行われなかった場合は算定できない。
		2 該当するがんの手術1年後にリンパ浮腫が発症したため、リンパ浮腫について説明した。		誤り。リンパ浮腫指導管理料の算定要件においては、説明時期が手術前後1ヶ月以内と限られている
		3 該当するがんの手術後、複数の入院患者を一堂に集め、指導を行った。		誤り。入院中における指導においては、個別に行う必要がある。
		4 該当するがんの手術後、複数の外来患者を一堂に集め、指導を行った。	✓	【正解】正しい。
15	リンパ浮腫予防のための日常生活の留意点について正しいものはどれか。 ①～④の中から1つ選びなさい。	1 右腋高リンパ節郭清を伴う手術を受けた患者には、右手で重い物を決して持たないように指導する。		誤り。患側上肢で重い物を決して持たないようにという指導は現実的ではない。
		2 乳がんの手術でセンチネルリンパ節生検を受けた者は、リンパ浮腫予防のための日常生活の留意点を継続する必要はない。		誤り。乳がんのセンチネルリンパ節生検後も、上肢リンパ浮腫の発症可能性がある。
		3 骨盤内リンパ節郭清を伴う手術を受けた患者がガーデニングを行う時は、手袋を着用することが好ましい。		誤り。骨盤内リンパ節郭清を伴う手術を受けた患者は、下肢の感染に注意する。
		4 骨盤内リンパ節郭清を伴う手術を受けた患者は両下肢のスキンケアをすることが重要である。	✓	【正解】正しい。

16	リンパ浮腫の保存的治療について正しいものはどれか。 ①～④の中から1つ選びなさい。	1	保存的治療はスキンケア、用手的リンパドレナージ、圧迫療法、圧迫下での運動療法の4つの治療法のみで構成される		専門技術の提供のみならず、学上や日常生活における管理などを組み合わせて実施される
		2	症状によらず、まずは弾性着衣を処方する事が標準的な初期治療である		初期管理は基本パスに準じて行う事が標準である
		3	必ず患者自身によるシンプルリンパドレナージの実践を併用する		症状に応じて必要で効果が確認出来る場合に実施される
		4	圧迫療法は状態に応じて多層包帯法や弾性着衣を使い分けて実施する	✓	【正解】正しい。
17	リンパ浮腫の保存的治療について正しいものはどれか。 ①～④の中から1つ選びなさい。	1	学上が効果的であるので、寝ている時間を長くすることを前提に浮腫の管理を試みる		無用な臥床は廃用性症候群の進行を助長するため、日常生活を送るための抗重力位で過ごす時間がある事を前提として管理を試みる
		2	初期管理の効果判定には、周径値の縮小のみならず患者等の管理スキルが向上したかどうかも含まれる	✓	【正解】正しい。
		3	リンパ浮腫における効果的な学上とは、患肢を出来る限り高く挙げて背臥位で寝る事である		症状に併せて有利な姿勢・構えを取る
		4	初期管理は症状によらず集中治療を実施する事から始まる		集中治療の必要性を判断し、基本パスを参考に必要に応じて管理を開始する
18	リンパ浮腫の保存的治療について正しいものはどれか。 ①～④の中から1つ選びなさい。	1	浮腫のリバウンドがコントロール出来ない場合、シンプルリンパドレナージの頻度の見直しを軸に移行管理をすすめる		昼夜の圧迫方法の見直しを軸に見直しを進め、自己管理の応用を検討する
		2	長期管理は長期にわたり継続出来る事を前提として方法を検討する必要がある	✓	【正解】正しい。
		3	リンパ浮腫の保存治療の目的は専門的な治療を提供する事である		患者や家族が段階的に自立出来るように専門技術を提供するものであって、技術提供自体が目的とはならない。
		4	長期管理のゴール設定は同一患者であれば常に同じであるので、一度設定すれば変更の必要は無い。		同一患者であっても健康状態等の変化によって変わる事があるため、そのときの状況に応じて最適なゴールを検討する必要がある。
19	次の文章で正しいものはどれか。 ①～④の中から1つ選びなさい。	1	続発性リンパ浮腫より原発性リンパ浮腫の方が簡単に診断できる。		発症原因が明らかな続発性リンパ浮腫の方が診断が容易である。
		2	リンパ浮腫の症状は、早期診断・早期治療することでコントロールしやすくなる。	✓	【正解】発症早期で軽症のリンパ浮腫をそのまま維持するように治療に介入する。
		3	乳癌手術後にリンパ浮腫を早期発見するためには、両側上肢の周囲径差を毎日測定することが絶対に必要である。		周囲径差は治療経過の確認には有効であるが、早期発見にはつながりにくい。
		4	超音波検査は、単独でリンパ浮腫を確定診断できる。		超音波検査で患肢の浮腫を確認できるが、リンパ浮腫という確定は困難である。
20	次のリンパ浮腫に関する記述の中から正しいものはどれか。 ①～④の中から1つ選びなさい。	1	リンパ浮腫の発症を確認しても、左右の周径差が2cmを超えるまで治療する必要は無い。		リンパ浮腫による皮膚の変化があれば、周囲径差が無くても治療を開始する。
		2	乳癌手術後に、毎日手術側の上腕の皮膚を触ることはリンパ浮腫の早期発見につながる可能性がある。	✓	【正解】リンパ浮腫による皮膚・皮下組織への水分貯留を確認しやすい。
		3	乳癌の手術後に手術側の上肢に用手的リンパドレナージを十分行えば、確実にリンパ浮腫を予防できる。		現時点で用手的リンパドレナージによるリンパ浮腫発症予防は確認されていない。
		4	リンパ浮腫の代表的な合併症は蜂窩織炎であるが、炎症の急性期もリンパドレナージを十分行う必要がある。		蜂窩織炎の急性期は、リンパ浮腫の治療を全て中断し抗生剤を使用する。
21	リンパ浮腫の合併症に関する記述の中から正しいものはどれか。 ①～④の中から1つ選びなさい。	1	患肢に発赤があっても蜂窩織炎とは限らず、血液検査で炎症所見を確認してから抗生剤を使用することが望ましい。	✓	【正解】患肢に発赤が見られても、蜂窩織炎以外の原因もあるためCRPや白血球数を確認して抗生剤を使用する。
		2	患肢からリンパ漏が見られると圧迫できないため、ガーゼを当てて緩く圧迫するだけである。		リンパ漏の改善には圧迫が有効であり、処置とともに十分圧迫する。
		3	足趾には皮膚の硬化や白癬症、巻き爪などが多いが、気にせず圧迫を十分に行う。		足趾の皮膚変化は蜂窩織炎のきっかけになりやすく、悪化しないうちに治療する。
		4	象皮症は不可逆的な皮膚変化であり、治療不可能で放置するほか無い。		象皮症の状態になっても治療による改善効果は期待できるため、あきらめずに治療に介入する必要がある。
22	用手的リンパドレナージについて正しいものはどれか。 ①～④の中から1つ選びなさい。	1	用手的リンパドレナージは一種類しかない。		沢山種類があり、リンパ浮腫治療に携わる場合2種類以上の手技を習得しておくのがぞましい。
		2	セルフリンパドレナージは必ず行わなければならない。		必要に応じて行うと良い。必ず適切な指導者に習い、症状に応じた内容でなければならない。
		3	適応によって用手的リンパドレナージの手技を使い分ける必要がある。	✓	【正解】正しい。

23	<p>手動的リンパドレナージの効果について正しいものはどれか ①～④の中から1つ選びなさい。</p>	1	貯留・うっ滞した間質液を誘導し流す事が一番の役割である。		それだけでは役割として不十分である。
		2	間質環境の恒常性の維持・改善が最大の効果である。	✓	【正解】正しい。
		3	手動的リンパドレナージだけでもリンパ浮腫管理には効果がある。		必ずしもそうではない。圧迫療法が一番重要。手動的リンパドレナージは圧迫療法の効果を補助する役割。
		4	手動的リンパドレナージで効果があるのは表在の毛細リンパ管だけである。		必ずしもそうではない。手技によっては深部のリンパ管や回収系脈管(吻合含む)もアプローチする場合もある。
24	<p>圧迫療法について正しいものはどれか ①～④の中から2つ選びなさい。</p>	1	圧迫療法は多層包帯法だけである。		様々な方法論と圧迫方法(包帯・弾性着衣)がある。
		2	圧迫療法は弾性着衣と包帯法があり、どちらも適応がある。	✓	【正解】正しい。
		3	多層包帯法ではロングストレッチ包帯を用いて管理する。		ショートストレッチ包帯を用いて管理する。
		4	多層包帯法ではショートストレッチ包帯を用いて管理する。	✓	【正解】正しい。
25	<p>リンパ浮腫の体重管理について正しいものはどれか。 ①～④の中から1つ選びなさい。</p>	1	肥満の定義の国際基準は、BMI25以上である。		誤り。日本ではBMI25以上、WHOでは30以上である。
		2	BMI25未満でも体重減量を行った方がよい。		誤り。BMIが高くない場合における減量のエビデンスは明らかでない。
		3	リンパ還流に悪影響を及ぼすのは、内臓脂肪よりも皮下脂肪である。	✓	【正解】正しい。
		4	食事制限のみで体重減量を達成出来れば、運動は取って行わない必要はない。		誤り。体重は減っても体脂肪の減らないサルコペニア肥満に注意する。筋肉量の維持を図る必要がある。
26	<p>リンパ浮腫に対する運動について正しいものはどれか。 ①～④の中から1つ選びなさい。</p>	1	高齢者や心臓疾患を持つ患者においては、運動を行わない方がよい。		誤り。運動の許容される範囲を評価した上で、行うことが望ましい。
		2	有酸素運動は、中強度の運動を20分程度行うものである。	✓	【正解】正しい。
		3	患肢に対する運動の負荷は、リンパ浮腫発症前に出来ていた事を目安に開始する。		誤り。運動の負荷は、浮腫増悪がないことを確認しつつ徐々に増やす。
		4	リンパ体操は疲労時には行わない方がよい。		誤り。負荷のかからないリンパ体操は、禁忌例を除き短時間でも出来る範囲で行うことが望ましい。
27	<p>リンパ浮腫の複合的治療における禁忌および注意事項について正しいものはどれか。 ①～④の中から1つ選びなさい。</p>	1	患肢に発赤と熱感が見られたら、まず安静と挙上を心掛ける。	✓	【正解】正しい。
		2	深部静脈血栓症の急性期には、圧迫療法を行うべきでない。		誤り。ただし、速やかな内科的治療が必要であり、その一環として圧迫療法も行われる。
		3	末梢に知覚障害がある際は、圧迫療法の圧力を弱める必要がある。		誤り。ただし、血行障害や食い込みがないように注意して行う必要がある。
		4	末梢循環障害が疑われるときは、徒手リンパドレナージを行うべきでない。		誤り。圧迫療法は慎重に行う必要がある。
28	<p>次の文章で正しいものはどれか。 ①～④の中から1つ選びなさい。</p>	1	ランダム化比較試験はエビデンスレベルIIIである。		誤り。エビデンスII
		2	大型の症例集積試験が一つ以上あれば、推奨グレードはAになる。		誤り。有効性を示すランダム化比較試験が少なくとも一つ存在する。
		3	エビデンスレベルIIの研究には一般に症例数が100人以上必要である。		誤り。症例数は要因にならない。
		4	権威者によるケースシリーズのエビデンスレベルはVIである。	✓	【正解】正しい。
29	<p>次の文章で正しいものはどれか。 ①～④の中から1つ選びなさい。</p>	1	推奨グレードCの治療は、有効性を示す症例報告が少なくとも一つ存在する。		誤り。推奨グレードCは、有効性を示す症例対照研究が少なくとも一つ存在することが条件。
		2	ある新薬を用いた非ランダム化比較研究で、治療群の奏効率50%に対し、無治療(対照)群では2%だったという臨床論文がある場合、その薬剤の有効性に関する推奨グレードはAである。		誤り。推奨グレードAは、有効性を示すランダム化比較試験が少なくとも一つ存在することが条件。
		3	一般にバイアスが小さいデータほど信憑性がある。	✓	【正解】正しい。
		4	推奨グレードDの治療は禁忌もしくは好ましくない選択肢である。		誤り。有効性を示す、比較対照を伴わない研究が少なくとも一つ存在する。
30	<p>次の文章で正しいものはどれか。 ①～④の中から1つ選びなさい。</p>	1	予防のために、セルフリンパドレナージの指導は推奨度Aである。		誤り。セルフリンパドレナージの有効性には根拠がない。
		2	肥満はリンパ浮腫の増悪因子であり、体重管理は重要である。	✓	【正解】正しい。
		3	ランダム化試験とはオンセットから前向きに行う試験のことである。		誤り。症例の無作為抽出による試験。
		4	利尿剤は発症後長期間経過した慢性リンパ浮腫に対する標準治療である。		誤り。有効性を示唆する根拠がない